

大蔵池南製鉄遺跡（おおぞういけみなみせいてつせいせき）

大蔵池南製鉄遺跡は、津山市神代地内、久米川・倭文川に挟まれた独立山塊である椋山（すくもやま）の南西斜面にあります。発見当時、操業年代が古墳時代までさかのぼる製鉄炉が日本で初めて確認されたもので、我が国の製鉄史研究を大きく前進させた遺跡です。

昭和 55（1980）年に実施された発掘調査によって、南向きの斜面を造成してつくられた平坦面に、7 層の作業面と箱型炉と推定される 6 基の製鉄炉跡が検出されました。他の遺構として、燃料置場や排滓場なども検出され、操業年代の上限は、作業面で出土した須恵器及び土師器から 6 世紀後半にさかのぼるものと考えられています。

この遺跡は、遺跡の重要性から調査当時に保存要望がなされ、発掘調査ののち道路法面に取り込む形で設計変更が行われ、現地に遺構が保存されています。

なお、最も保存状態の良好であった 4 号炉跡の複製が製作され、津山市久米歴史民俗資料館で出土遺物と共に展示されています。



大蔵池南製鉄遺跡（調査時）
（東から）



大蔵池南製鉄遺跡現況（北西から）